



「習志野 ずっと住みたい まち計画」 第 30 号

無所属

習志野市議会議員

伊藤ひろし



下水道の耐震対策

12月の定例会が22日に閉会します。私は12月8日(木)の3番目に質問を行いました。質問項目は、①下水道の本復旧 ②防災体制 ③滞納徴収 ④交通安全 ⑤スポーツ振興です。防災体制については、詳細に7項目の質問をしました。

(議会中継の録画がインターネットで「習志野市議会 議会中継」で検索すると見ることができます。)

今議会報では、「下水道の本復旧」を御報告させていただきます。習志野市は、3月の大地震で埋め立て地域の「下水道」が大きな被害を受け、1,500戸が使用不能となりました。

来年度より汚水・雨水管を合わせて約10キロメートル、マンホール120箇所の本復旧工事に着手する予定です。災害に強い都市基盤整備は、政治の役割です。私は、本復旧工事や市内の老朽管更新・補修工事においては、「災害に強い技法」で整備するべきと考えます。そこで、具体的な耐震対策・液状化対策の技法を議会で提案しました。

「耐震対策・液状化対策の技法」導入を提案！

1、マンホール浮上抑制のための技法

(浮上抑制ブロック施工・水圧消散弁の設置施工)

2、マンホールと本管の接合部の

外れ防止のための技法

(接合部にゴム管を設置して地盤内で可動する継手)

3、取付管の外れ防止のための技法

(取付管とは、下水道本管と家庭を結ぶ管のこと)

4、固化材・改良土を使用した埋め戻し土

(軟弱地盤など、地盤改良する際に土を固めるために添加する材料)



「耐震対策・液状化対策の技法」導入を提案！

提案①（マンホール浮上抑制策）

浮上抑制ブロック施工や水圧消散弁の設置施工が有効であるが、導入を考えているのか？

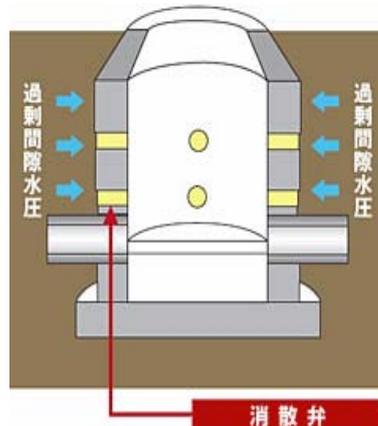
回答：有効な手法と考える。他の方法も検討し、現場条件・経済性を考慮して実施したい

抑制ブロック施工



水圧消散弁の設置施工

マンホール周囲の液状化現象を抑える弁の設置



提案②（マンホールと本管の接合部の外れ防止対策）

接合部にゴム管を設置して地盤内で可動する「可とう継手」の導入を提案するが、どうか？

回答：マンホールと管の接合部に「可とう継手」を設置したいと思う

提案③（取付管の外れ防止対策）

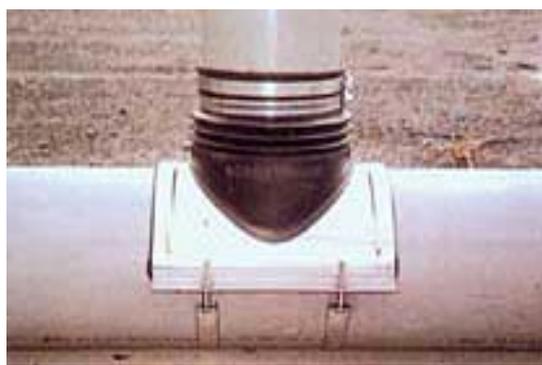
下水道本管と家庭を結ぶ管の接合部に「可とう継手」の導入を提案するが、どうか？

回答：有効な手法であるので、使用について検討する

可とう継手（つぎて）



可とう継手（つぎて）



提案④（埋め戻し土）

埋め戻しの際は、固化材を添付した改良土の活用を提案するが、どうか？

回答：浮上抑制対策として有効であることから、現場の状況・経済性を考慮して実施したい

提案⑤（震災被害地区以外の耐震・液状化対策）

地震被害想定調査結果において「埋め立て地域以外」で液状化危険度が高い地域への耐震対策は、考えているのか

回答：今後、地震被害を受けなかった市内の下水道についても耐震対策を検討し、実施する

東日本大震災において、袖ヶ浦・香澄地区の下水道管は、「抜け外れ」「破損」や「マンホール・管内に土砂が入り込んで詰まる」事態が発生しました。予想される大地震に備え、耐震技法による整備を提案しました。市役所は、完全復旧まで2年程度を要すると見込んでいます。習志野市では、震災後「下水道の災害復旧」に、現在まで総額、約28億円の予算を計上しました。今後も継続的に本復旧工事の進捗状況を注視していきます。